

1.日本人は己の価値に全く気付いていない… 谷本 真由美著述家、元国連職員

「世界中で圧倒的な人気を誇る"日本では当たり前"の身近な製品」

「命を左右するような戦場で日本製は信頼できる」日本が世界に存在感を示せるものは何か。

イギリス在住で著述家の谷本真由美さんは

「日本人は世界から生真面目で信用されているため、車や家電など業務用の機械など専門性の高い製品はまだまだ日本製が強い。命を左右するような戦場で、イスラム国のテロリストさえ乗っている車はトヨタのピックアップトラックである」という――。

[PRESIDENT Online](https://president.jp/articles/-/73028?page=1) 2023/08/31 6:00 <https://president.jp/articles/-/73028?page=1> より

激変する国際情勢の中で、先が見えぬ日本。 政治は相変わらずの老害・先送り・丸投げの場当たり政治の中で、見つけたこの谷本真由美氏の「プレジデント オンライン」の記事。

きっちり根拠・検討がなされている訳でもなく、「近視眼的な良いところ採りの極端な記述が並べられている」との思いもあり、また、谷本氏の著作「激安ニッポン」の販売戦略の為の記事のにおいがするのですが・・・

先進国の中で日本だけが超低金利・円安誘導の政治が続く。日本の中に見えぬ実態が描かれているのかも。

全面的に賛同しているわけではありませんが、なにか、面白く「ふむふむふむ」と

私の今の思いに響くところもあり、 参考までに記事転載。

2023.9.1. Mutsu Nakanishi

〈日本人は己の価値に全く気付いていない〉 谷本真由美

2023.8.31. on line President より

北米や欧州で「日本のもの」は安心できる

日本人は外国に売ることができるサービスや商品があることに気がついていません。そういったものをどんどんマネタイズ、つまりお金に変えていくべきなのです。日本人は控えめな人が多いのでマーケティングや営業が非常に下手くそです。しかも国内のことしか知らないの、外国では一体どういうものが受けて何が売れるのかということを理解してないのです。

これは日本だと日常生活でさまざまな国の人と接触しないことや、教育がドメスティックすぎるというのがあります。たとえばまず日本人は日本の海外でのイメージに気がついていません。

特に中国では 日本人というのは非常に生真面目で嘘をつかないので取引がやりやすいということでも有名です。

なので、彼らは日本人と取引する際、相手が誠実なので安心して買うことができると考えているのです。

これが日本で中国人が日本の商品を爆買いする理由です。

彼らは母国の人々を信用できないので日本人から買うのです。これは中国人だけかというところではありません。実は北米や欧州でも日本のものは安心できるということでも有名です。

なので、非常に材料にうるさい健康志向の人々やベジタリアンはまだまだ日本の超高価格帯の調味料や米を買っているのです。これは単に味がいいからということだけではなく、日本のものであれば変なものを使っていないから衛生管理がきちんとしているから安全だということなのです。

専門性の高い製品はまだまだ日本製が強い

これは日本車や日本の家電に対しても同じなのです。

トヨタをはじめとした日本のメーカーは海外ではまだまだ強く、道路状況が厳しいタイや南米、アフリカでも日



谷本真由美『激安ニッポン』
(マガジンハウス)

本車は人気があります。イスラム国のテロリストでさえ、乗っていたのはトヨタのピックアップトラックです。命を左右するような戦場で日本車を使いこなしているのです。そういう厳しい場には中国車や韓国車は存在感がありません。家電は韓国製よりも人気はありませんが、業務用の機械など専門性の高い製品はまだ日本製が強いのです。

これも日本人の生真面目さや信用というのが裏付けになっているのです。日本の製品やサービスにはこういったイメージがあるということを理解してもっと多様なものやサービスを海外の人に売ればいいのです。どんなものに需要があるかは普段から外国の人と接触したり実際に現地に行ってみて自分の手足と目を使って調べてみたりするのが重要です。

自分で調べて学べば商機はいくらでもある

これに関しては今の日本人は戦国時代の武将に学ばねばなりません。

彼らは電話もインターネットもなく言葉もなかなか通じない中で、欧州諸国は日本に対して何を求めているのかということを知り、数少ない情報の中から彼らの戦闘力や戦略を理解して植民地化を防ぎました。

仙台藩主だった伊達政宗は約400年も前に、ノビスパニア（メキシコ）との直接貿易を求めて、イスパニア（スペイン）国王及びローマ教皇のもとに、慶長遣欧使節と呼ばれる外交使節を派遣しているのです。

伊達政宗だけではなく、当時の戦国武将たちは欧州の人々のことを熱心に研究し、地政学も理解していました。

インターネットやメディアが発達しており移動も自由な現在において日本人はもっと多くのことを個人でも学ぶことができるはずですが、自分で調べて学ぶ中で商機が見つかるはずですが、そしてトライアンドエラーで実際に売ってみてどうなるかということもやってみるほかありません。「とりあえず考えるよりやってみよ」です。停滞している日本に足りないのは、こういった「やってみよう」「失敗してもいいから試してみよう」という挑戦心と思切りのよさがある人々です。

投資すべきは「インバウンド」より「高付加価値の産業」

日本のものやサービスは海外で売れるとは言っても、最近流行りのインバウンド、要するに外国人観光客に依存する商売を進めていくのは考えものです。

基本的に観光業というのは地元の風景や観光名所の切り売りにすぎませんから自分たちで何かづくり出すような技術やアイデアが発展していくわけではありません。

付加価値が高い機械や技術をつくり出すよりも、地元で観光客を連れてきてホテルに滞在させるほうがはるかに簡単なのです。これはご先祖の遺産を切り売りして生活する子孫とまったく変わりありません。しかも日本全体の経済規模から考えると観光業が占める割合というのは非常に小さいのです。

世界旅行ツーリズム協議会（WTTC）の2022年の調査によると、日本の旅行・観光産業の寄与額は2063億ドルでGDPに占める割合は4.2%にすぎず、海外旅行者の支出が占める割合はわずか0.7%、G20参加国中で最低値なのです。これはコロナで日本と海外を往来する人が激減したために外国人観光客の支出が90%近くも減ってしまったというのもあるのですが、例年通りだったとしてもGDPの2%にもいかないわけですから非常に小さいわけです。

政府はこれをもっと拡大していくという目論見のようですが、それよりももっと持続性があり、高い付加価値を得ることが可能な産業のほうに投資をしていくべきでしょう。

有望なのは「IT×製造業」

そして日本はこれからどんな業種に注力していくべきなのでしょう。

まずやはり筆頭にあげられるのは情報通信産業です。ここ最近ではAIの発展が注目されていますが、今後はもっと伸びていくはずですが、さらに情報通信技術と製造業のハイブリッドが伸びていきます。

その代表の1つがたとえば自動運転の車であったり、産業機器や家電の自動化、遠隔操作といった世界です。医療や軍事の世界でも、情報通信技術を活用した機器がますます活躍しています。

このような世界では単にサービスや機械を提供するよりも、正確性や継続性が非常に重要です。



写真=Stock.com/Grassetto※写真はイメージです

収集したデータをきちっと管理したり
保全したりすることも重要なのです。
これは世界各国でデータ漏洩や独裁国
家によるデータの悪用がどんどん外に
出てくるようになったからです。その
点、日本は、民主主義国家でありきち
っと仕事をする人々が多いので非常に
信用性が高いわけです。

しかし、日本は自分たちの強みをア
ピールする力が本当に弱い。日本人は
それを当たり前だと思ってやっている
ので海外の人は日本人がそんなに厳密
に仕事をしているということを知らないのです。

こういった生真面目さや手順の厳守、コンプライアンス体制の厳しさなどをどんどんアピールしていくことも重要でしょう。しかも日本には多様性がないと批判されていますが多様性がないということはある意味強みになるのです。

それは国内で働く人々が日本人だらけで出身校や出身地がはっきりしていますから、バックグラウンドチェックが非常に容易だということです。ダイナミックなプロジェクトを立ち上げたり変わったことをやるのには多様性がないことは不利になりますが、その一方でいい点もあるということは強調していくべきなのです。

「格差」が広がると「犯罪」が増える

最後に、生活面での変化についても述べておきます。

今後日本では労働者の階層が分かれていくので、日本では格差がどんどん広がっていくはずですが。

実際、最近では北米や欧州の手口を取り入れた犯罪も増えてきました。

たとえば数万円の現金を奪うのに、真っ昼間に正面から人様のお宅や商店の玄関口から入り込んで強盗を行ったり、昼間に宝石店を襲ったりするような非常に荒っぽい犯罪です。しかもやっているのが未成年や 20 代の若い人々が目立つようになってきました。

従来の組織犯罪がやらなかったような非常に効率が悪く手荒い事件が目立つようになったわけです。

今後は日本もどんどん格差が広がっていくので、とりあえずとにかく現金が欲しいという非常に短絡的な目的でこういった略奪を行うような犯罪が増えていくはずですが。

これはすでに北米や欧州が辿ってきた道です。

たとえばイギリスは 1980 年代までは比較的経済格差が小さく、特に戦後はイギリス病と言われた停滞を経験し経済不況もあったのでみなお金がありませんでした。ところが金融ビッグバンで金融改革が行われ、製造業中心の社会からサービス業中心の社会になって階級の下克上が起こるようになりました。

そこで起きたのが経済格差の拡大で、生まれよりも努力によって稼ぐことができるようにはなったわけですが、お金のあふれははっきりと目に見えるようになりました。

しかもサービス業が中心になってきたので雇用が短期間のものばかりになり、かつてのような終身雇用がなくなります。

しかも仕事自体もかつて製造業が盛んだった頃は労働集約型的だったのですが、今や少人数の頭が良い人が行えば稼げてしまう業種が増えてきたので稼げる仕事が減っています。

そこでもうあまり稼ぐことができない若い人たちが空き巣や窃盗、薬物取引などを行うのです。

日本はだいたいイギリスの 30 年ぐらい後を追っているなので、あと 10 年もしたら今よりも非常に短絡的な形で空き巣や強盗などがどんどん増えていくはずですが。

そのような中で生活していくには、性善説に沿ってはいけません。

[インターネット](#) [PRESIDENT Online](#) 2023/08/31 6:00 より



※写真はイメージです

「同じ言葉も使いよう それは羽毛より軽くなり、それは石より重くなる」 2023.8.25. 正平調より

正平調

〈同じ言葉も使いよう それは羽毛より軽くなり それは石より重くなる〉。詩人の堀口大学は書く。〈そのけじめに詩はほろび そのけじめに詩は生きる〉◆軽い気持ちで発せられたデマやとんでもない怪情報でもいったん広がると、うわさがうわさを呼んで人々の不安をかき立てる。原発事故から12年、今も福島の農産物や水産物は風評被害の渦中にある◆昨日、福島第1原発にたまる処理水の海への放出が始まった。放射能レベルが科学的に安全だというのは理解できる。国際機関も福島に常駐して監視している。それをどう人々の安心に結びつけていくか◆こんな時こそ政治の出番だ。かつて「アンダーコントロール」などと軽い言葉を発した首相もいたが、岸田首相には石より重い言葉で誠実にうわさを打ち消し政治のけじめを示してもらいたい。心の底から、そう願う◆本紙で福島の若手漁師が言っていた。「放出しかないんだろうけど自分は反対。ただ、早く廃炉になってほしい気持ちもある」。作業が続く限り、放出は続く。一日も早く廃炉を。心の底から、そう願う◆「どれだけ福島の風評被害を抑えられるか。それが自分たちの役目」。水産物の卸業者や小売業者から、重い言葉が聞かれる。私たちも連なる。 2023.8.25

「地球の宝を守りたい 収蔵品を守るため人間はクーラーを切って耐えている 国立科学博物館で」 2023.9.2.

正平調

クーラーのない自室でいま、このコラムを書いている。大学生の頃、下宿用に買った扇風機が健在で、どうしても捨てられない。熱中症対策が欠かせない今どき非常識と怒られそうだが、暑さに耐えられないのは人間だけではないらしい◆この夏、驚くニュースはいくつもあったが、最も衝撃を受けたのは国立科学博物館（科博）が始めたクラウドファンディング（CF）だった。光熱費の高騰で500万点に上る収蔵品の維持管理が限界だという◆科博は動植物や化石など世界中の標本を集める日本最大級の博物館だ。地球と人類の蓄積を未来につなぐ知の拠点である。その研究の基になる収蔵品を100年、千年先に残すには適切な温度管理が欠かせない◆それがピンチとは。「地球の宝を守りたい」。館長の切実なメッセージが通じ、目標の1億円を大幅に上回る寄付があったが、これでよしとなるはずがない。日本の文化行政の貧困ぶりが白日の下にさらされた◆収蔵品を守るため「人間はクーラーを切って耐えている」と話す研究員の目は悲しみに満ちていた◆世界を見渡せば、英国や米国に比べ、科博の収蔵品数は10分の1以下。CFは11月5日まで続く。何にお金を使うべきか。汗をふきふき涼しい頭で、よく考えたい。 2023.9.2

台風一過で済まない現実がうらめしい 新たな対策が・・・災害に「まさかは禁物」 2023.8.17.

正平調

「台風は生き物じゃないのに、なんで目があるの?」。子どもの素朴な疑問に答える夏休みのラジオ番組でこんな質問を聞いたことがある。言われてみれば、雲や風には目がないのに、なぜ?◆そのとき専門家がどう応じたかは覚えていないので、素人ながら筆者が回答するところなる。台風は赤ちゃん海水温が高い赤道周辺で生まれる。上昇気流が地球の自転で時計と逆回転の風になると巨大な渦巻きになって…。平易な解説はじつに難しい◆こうして生じた鋭く大きな目がどこへ向かうのか。お盆の間、ハラハラして見守ったが、まさか兵庫を縦断するとは。兵庫への上陸は2018年の台風21号以来5年ぶり。やはり災害に「まさか」は禁物である◆困ったことに、地球温暖化で強力な台風は増えそうだという。国立海洋研究開発機構によると、21世紀末に強い台風は6・6%増、降水量は11・8%増えると予測する◆幸い、それほど大きな被害はなかったが、浸水などで住宅や道路に影響が出た。地盤が緩んだ地域では土砂崩れの心配が続く◆大きな台風の後には大量のプラスチックごみが海に流れ出す。先の機構が調べたところ1300倍に増えたというから新たな対策が必要だろう。台風一過で済まない現実がうらめしい。 2023.8.17

